

栄光

説教・「自由で
気前の良い神」
饒平名丈伝道師…1
特集・
おすすめ映画…2
松浦基牧師との
懇談会報告…4
説教・「遣わされた
恵みに生きる」
松浦基牧師…5
振起日礼拝・懇談
会に出席して…6
追悼・
鈴木督子姉…7
長老のファイル…7
牧師の書齋から…8

説教

『自由で気前の良い神』

マタイによる福音書20章1節～16節

カンバーランド長老キリスト教会

泉伝道教会伝道師 饒平名丈

「まさかこの人が」と皆さまが

驚くほどに、経堂北教会の説教台の前に立った人間は、自分自身ですら想像だにできなかった牧師への道を歩んでいます。趣味のクルマを乗り回し、週末はテニスやスキーに出かける生活で、全く世間の価値観に染まっていた、敬虔でも熱心でもない教会員の一人でした。それがどうして「この道」に入ってしまったのでしょうか。

今回の聖書箇所は、私のような社会一般のサラリーマンの基準から考えれば、全く納得のいかない話です。朝早くから働いている人と、夕方の終了直前に働き始めた人と同じ賃金であるというたとえ話です。この話のように「後にいる者が先になり、先にいる者

が後になる」ことが実際に起こり

うることを、私は93歳で受洗した義理の父の信仰から教えられました。神様は能力や労働時間、努力や結果で人を見ないということを、このたとえば私たちに教えてくれるのです。

聖書は「妬み」を明確に「悪」と定義しています。「気前良い雇用主(神様)」から与えられる恵みに対して、私たちはどのように対応するのでしょうか。他人と比較して「気前良い主人なのだから、遅く来た人よりもずっと働いている私には気前良く賃金を上乘せしてくれても良いでしょう」と思ってしまうのです。これだけ社会で仕事や子育てに苦勞し、実績を残した私へはもっと気前よく神様は恵

んでくれるはずと心のどこかで考えてしまっているのではないのでしょうか。

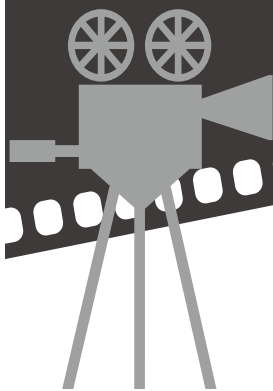
しかし、「天の国」の基準は全く違います。神様は人間の平等意識とか働いた時間や業績、期待などにはお構いなく、その人にとって大切で必要なものを自由に気前よく与えてくださるお方だと明示されているのです。実はこれこそが、私たちの希望ではありませんか。神様は常に働きの人を探しておられるのです。私のような、あと何年ご奉仕できるかわからない者へも、神様は必要な恵みを、神様のしたいように与えてくださるお方です。自分の能力や実績、努力を誇るのではなく、私に必要なものは、神様からタイムリーに与えられるという希望があるのです。

陸軍士官学校を出て、銀行に就職し、大学で教え、お寺で座禅会の会長をしていた義父が受洗を決意したことは、私には衝撃的な事件でした。主のみ言葉を求める身近な人の存在に気づかず、思い込みでその人を全く無視していた自分への神様からのお叱りでした。義理の父は、病床にあつて、共に聖書を読み、讚美歌を歌い、神様

に祈りを捧げていました。「好きなことをやりなさい」と彼の私への言葉には泣き崩れるしかなく、心碎かれる体験でした。私には「もっと多くの人をぶどう園へ招くために出ていきなさい」という神様からのメッセージのようにも思えました。この自由で気前の良い神様であればこそ、ひとり子を十字架につけてまで、私たちを愛せようとしたのです。

神様はあなたをいつでも招いてくださいます。私たちは「もう遅れてしまったから」とか「私のような者をぶどう園に誘ってくださるはずはない」と思い込むことなく、神様のぶどう園へ共に出かけていきましよう。そこではこの世の基準ではなく、気前の良い神様の基準で、一人ひとりに恵みがあります。この世の価値観に縛られるのではなく、勝手な思い込みに捕らわれるのではなく、この方の前では、互いに比較して誇ったり、自己卑下したりする必要はありません。心碎かれて、素直な目で十字架の主イエスを見上げながら歩もうではありませんか。

おすすめの映画



最近、映画を観ていますか？

動画配信サービスで好きな時に映画を観られるようになりましたが

映画館の魅力も捨てがたいものです。

あなたのおすすめの映画を教えてください。

わたしにとっての映画

大友太郎

私にとって一番の映画はタルコフスキー監督の遺作『サクリファイス』です。核の危機の時代の救いがテーマのこの映画を私は大学1年の時に見て、おこがましいことに「これは、僕が作ろうとしていた映画、先を越されてしまった」と思っていました。

うぬぼれやの自分は、大学時代は自主映画制作に明け暮れ、自由気ままな8年間で過ごしました。経堂北教会のCSの子どもたちや岸牧師の息子たちに映画に出てもらったり、教会の地下でアフレコ作業をさせてもらったり、勝手気ままにして、色々迷惑もかけました。出品した映画祭で大島渚監督に声をかけられたことも良い思い出です。戦争を主題にした自主映画が珍しかったのかもしれませんが、大学を「裏口」卒業したあとは、映像の仕事もしました。ドキュメンタリーの仕事では、布川徹郎、

伊勢真一、金聖雄の各氏にお世話になり、反体制のこと、障害児のこと、在日のことを身近に感じさせてもらいました。伊勢真一監督は今年『大好き〜奈緒ちゃんとお母さんの50年〜』という映画を完成させました。主演の奈緒ちゃんは、私の母の子どもの頃からの友人の娘さんで、監督の姪っ子なのですが、知り合いということ差し引いても、半世紀にわたる取材のこの映画は本当に素敵です。で、みなさんにもぜひみてもらいたいなと思います。伊勢監督の作品は旧作も含め自主上映のための貸出もしているので、学校関係の方などぜひ利用してください。

劇映画ではお世話になったのは、私の妹の麻子の紹介で現場に入るようになった若松孝二監督です。低予算の自主映画で映画製作から上映までやってしまう力技に恐れ入りました。「お兄ちゃんの映画も一緒に上映しよう」と言ってもなかったこともありましたが、監督が亡くなり、私も再び教育現場に戻っています。もう一度映画を創ることは無さそうですが、人生まだ何があるかわかりませんね。

素直に楽しめばよい？

加用真実

65歳で現在の会社に移籍、主力製品はエアフィルター。エアフィルター？ 一般の方にはなじみのない製品ですよ。では少し説明を。例えば手術室の空気はきれいではなくては困ります。ほこりは勿論、ウィルスのいない空気を作るフィルターがHEPA (High Efficiency Particulate Air)。空気がろ過能力は0.3μm (マイクローメートル) の塵の99.97%を除去。ちなみにウィルスは約0.01〜0.2μm。「じゃあウィルスは捕獲できない？」と思われるかもしれませんが、ウィルスは自己飛翔できず、ほこりと交じり塊で存在するのでHEPAで捕集できるのです。HEPAの開発は第二次大戦後期マンハッタン計画でした。原爆の開発者は爆発実験で出る「チリ」が人体に害を及ぼすことを知ってました。HEPA開発はこの塵の除去が目的だったのです。トップレ

ベルの研究者たちはHEPAが設備された観察室で実験を観察(ちなみに作業担当の兵は屋外で)。

さあここまでで私の観た映画、わかりますよね、『オッペンハイマー』です。ここで話をHEPAに戻し、0.3μmのサイズ感をもう少し分かり易く説明します。皆さんの髪の毛は約100μm。これを10cmの円とすると0.3μmは鉛筆の先でちょうど押した点。すこしご理解いただけましたか。現在HEPAは、高度な空気清浄度が求められる、手術室、半導体、食品そして製薬工場などで使われています。

私が今回これをとったのは入院中に読んだ理論物理学者ファインマン(原子爆弾開発者の一人)の自伝によります。映画を観てからずつと心に引っかかっているシーンが。開発に関わった方々が戸外で爆破試験を見るシーンですが、これは全く嘘。製作者は爆発のすごさ、臨場感を考え、嘘を加えた？ 映画だから。しかし私はここに彼らの作為を感じます。これは歳で素直さが欠けてきたからかな？ でもまだ心に引っかかっているのです。

見合う人生？

松井光子

1998年公開の古い映画だが、スピルバーグ監督の『プライベート・ライアン』を紹介したい。主人公はアメリカ陸軍のライアン二等兵。4人兄弟の彼は、3人の兄を戦争で失っていた。その事実を知った米陸軍参謀総長は、ライアンを母のもとに戻す命令を出す。ライアンはノルマンディ上陸作戦に危険な任務で参加していた。海からの上陸に先駆けて、敵の背後にパラシュートで降下する部隊の一員だったのだ。

ミラー大尉を隊長とする8名の兵士が、ライアンを探し、救出するために特別に編成される。作戦命令に葛藤しつつも、選ばれた8人はライアン救出に動く。

ようやくたどりついた町で、ミラー大尉らはライアンを見つけ出す。そこにたどり着くまでに仲間の一人が戦死。彼らはすぐにでもライアンを連れて戻りたかった

が、ライアンは、「まもなくドイツ軍が襲撃してくるのが分かっているのに仲間を置いてここを去ることはできない」と言い、一行は、ライアンたちと共に戦うことになる。激しい戦いで一行の生存者は、最初の8名のうちわずか2名。ミラー大尉も命を落とす。死の間際に、ライアンを引き寄せて、ミラー大尉は命令するような口調で語る。「無駄にするな…しっかりと生きろ」

場面は半世紀後、ミラー大尉の墓の前が変わる。ライアンは、ミラー大尉の墓に語りかける。「無駄にしなかっただろうか。あなた方が私にしてくれたことに、見合う人生だっただろうか？」

フレデリック・ナイランドという人の経験を下敷きにしたこの映画が語りかけているもの。その一つは、私たちを生かすために大勢の人が犠牲を払っているということだろう。私もまた、見えるところ見えないところでの犠牲、イエスの贖いによって生かされていることを思う。「あの方が私にくれたことに、見合う人生だろうか」との問いを生きたい。

奇跡

松田昭彦

コロナ禍のため映画館から足が遠のき、動画配信サービスに頼っている。ここに取り上げる映画は、今では時代がかっていられるかもしれない。デンマークのドライヤー監督が1954年、戯曲を映画化した『奇跡』である。監督自身が奇跡について強い問題意識を持っていた。

一家には、正気を失った神学生、教派間で仲違いをしているキリスト教徒（デンマークは新教国）の親、遺産を控えた娘などがいる。神学生の言葉、「奇跡を信じないのか」あるいは、「奇跡はゆっくり起きる」との語り掛けは、監督の問題意識であると共に、キリスト者への語り掛けのように思われる。物語の最後には少なくとも3つの奇跡が起きる。私はこの作品を感動なしには観ることができない。私にも、似たような出来事がゆつくりと、しかし、確かに起こった

た。2004年1月の礼拝に於いてであった。当時の私は60代で、17歳で受洗した頃の喜びに満ちた信仰が失せ、神の恵みを喜ぶことができないでいた。わたしの信仰は知らず知らずのうちに、御利益信仰になっていったのかもしれない。

その日は、マタイ4章23節〜25節の宣教であった。イエスの活動の「要約的報告」の箇所である。「イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民衆のありとあらゆる病気や患いを癒やされた。そこで、イエスの評判がシリヤ中に広まり、人々がイエスのところへ……あらゆる病人を連れて来たので、これらの人々を癒やされた」(4:23,24)。

癒す (Therapeia) はギリシア語で癒す(セラピー)の意と、「仕える」の意があると知った。癒す行為は仕える行為でもある。イエスは仕えてくださったということでもある。神の御子が人間に仕えてくださること自体、有難いことだ。私は信仰を新たにされ、牧師が「どんな状況でも神を信じなさい」と述べられていることが分かったように思う。

松浦子基牧師との懇談会報告

8月最終週に高知教会の松浦先生をお招きし、懇談会をもちました。彼と出会ってから「松浦先生」と呼んだのは、これが初めてでした。当教会出身の先生は、「しっさき」という愛称で子どもたちから大人まで親しまれていました。2015年に神学生として当教会の教会員となり、CS教師、青年会など、様々な取り組みをしていただきました。富士急ハイランド、千葉キャンプ、真夜中の高尾山など、思い出はたくさんあります。

今回、お招きするにあたり、懇談会の内容を打ち合わせるはずでしたが、こちらで写真だけを用意し、あとは当日の雰囲気、アドリブで話してもらうことにしました。その方が「らしさ」が出るからです。松浦先生は、台本や筋書きを用意すると、途端に面白くなってしまうのです。そのことは、クリスマス祝会の寸劇で既に知っていました。ですから、事前に高知教会の様子が分かる写真や、松浦家の写真を数十枚送っていただき、その写真をプロジェクト

ターに大きく映し、先生に説明をしていたきました。第3子、次男の「夏樹くん」が生まれたことの報告から始まり、コロナ禍で制約の多い中、伝道師として高知教会に赴任したこと、地域で包括して青年の活動を行っていることなど、赴任してから今夏までの先生の歩みについて話していただきました。

懇談会のあとの話しになります。昼食をとったあと、松浦先生にとっては久しぶりの神学大学に足を運びました。5年住んでいた寮はすっかりなくなつて、跡地には雑草が伸びきっていました。新しい寮は4階建ての綺麗なマンションで、エレベーターもありました。学生の頃、寮に住む彼の元を訪ね、夜遅くまでゲームをしたことを思い出します。

しっさき、学生だった僕らが今では父親で一家の大黒柱だ。子育てに仕事に、お互い忙しい身だから、いつか落ち着いたらまた風くんも誘って3人で箱根旅行に行こう。この先、何年経ってもあの頃のままでいよう。あの頃のままで、また遊びに出かけよう。(諸橋鷹広)

説教

『遣わされた恵みに生きる』

ルカによる福音書10章17節〜20節

高知教会牧師 松浦子基

8月21日に第三子となる「夏樹」が生まれ、喜びの知らせを持って神学生時代お世話になった経堂北教会で説教の務めをさせていただきました。経堂北教会では教会に仕える姿勢について、主任の岸先生をはじめ、伝道師だった上野先生や狩野先生、当時の長老や教会学校教師の方々に学びました。當時を振り返ると、教会が自分の居場所となっていましたし、何よりも礼拝によって整えられ、教会生活を送ることが出来たことを本当に感謝しています。

ルカによる福音書にはイエス様の12弟子だけでなく、その他大勢の弟子として72人の弟子が登場します。ペトロやヨハネなどの12弟子はイエス様によって特別な使命が与えられ、その後の教会を指導する立場となり「使徒」と呼ばれました。一方でこの聖書箇所に登場する72人の弟子たちは、名前や素性が聖書に一切出てこない「名

もなき信者」でした。私たちはイエス様の弟子と聞くと、すぐに12弟子を連想しますが、この72人の弟子たちは、まさにキリストに連なる名もなき信者の1人であって、信仰生活を送る私たちの姿なのです。

さて72人の弟子たちはイエス様によって村や町に派遣されました。彼らには出発前、恐れや不安がありました。「自分たちはイエス様のもとから離れて、本当に働きを担うことが出来るのだろうか？」そんな気持ちに彼らを支配していたに違いありません。しかし、イエス様のもとに帰って来た彼らの様子は喜びに満ち溢れていました。なぜなら、彼らは旅の中で何不自由なく過ごし、さらにはイエス様の名によって病人を癒し、悪霊を追い払う働きを経験したからです。

この72人の弟子たちは遣わされた場所で、イエス様の名による癒

しを実際に経験し、それまで苦しんでいた人がイエス様によって変えられていく姿を目の当たりにし、その結果を喜びました。しかし、イエス様は彼らに対して「むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい」と注意しました。それはなぜなのでしょう。彼らが体験した癒しについて「イエス様の名によって」という部分がとても重要でした。この喜びは遣わされた弟子たちの努力によってではなく、イエス様を信じる信仰によって、イエス様の名による癒しが行われたからです。イエス様の恵み抜きにして病人の癒しはあり得ません。しかし、この時72人の弟子たちの中に、この癒しの御業を、まるで自分の手柄のように思い違え、浮足立って喜んでいる者がいました。イエス様はそのような者に向けて注意をしたのです。

「むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい」。このイエス様の御言葉は私たちにも向けられています。信仰を持って私たちが歩む時、癒されるはずのない人が信仰によって

癒されていくような、そんな体験を目の当たりにするかもしれせん。または信者であるこの私を通して、神様の特別な恵みが行われたと感じる時があるかもしれません。しかし、私たちに与えられている本当の喜びはそのような経験によって左右されるものではないのです。私たちに与えられている本当の喜びは、私たちの一人ひとりの名が天に書き記されていることにこそあります。この私の名が天に記されている、それは神様が私たちを救いに与からせる者として選び、招き、究極的に愛してください。

名もなき72人の弟子たちの姿は、まさに今の時代を生きる私たち一人ひとりの姿と重なります。私たちは普段名もなき信者として、それぞれの持ち場へと遣わされています。家庭において、職場において、学校において、信者としてこの世に遣わされている私たちは、自分の栄光を追い求めるのではなく、神様の栄光によって、与えられているまことの喜びに生きたいと願います。遣わされた恵みに共に歩みましょう。

振起日礼拝・懇談会に出席して

経堂北教会を再び訪れて

饒平名尚子

経堂北教会の皆様と共に礼拝を捧げ賛美し、また礼拝後も良き交わりの時を与えられ、本当に嬉しく感謝いたします。この教会で信仰を育まれ、多くの出会いが与えられたことは、人生においてまさに何ものにも代えがたい恵みだと改めて感じ入りました。オルガンの音、賛美の声、懐かしい皆様のお顔に胸が一杯になり、長い年月が飛んでいくようでした。

夫が伝道師として特別伝道集会のために経堂北教会を訪問するとは、皆様には大きな驚きだったと思います。私たち夫婦もこのような機会に驚き、感謝しつつ、緊張しながら当日を迎えました。説教の中でも少し触れましたが、父が93歳で信仰告白をしたことが夫の背中を押して、夫は神学校に進む決意をしました。神学校入学式で岸先生、小田さんにお会いした時の驚きと喜びは今でもよく覚えています。その後の歩みは、無我夢中でした。夫は朝早く仕事に行き、

夜間に神学校で学び、夜中に帰ってくる毎日でした。神様の支えと憐みなしには出来ないことでした。

懇談会では、伝道師のこれまでの半生を振り返り、皆様から、現在奉職しているカンバーランド長老教会泉教会（横浜市）の様子や伝道のこと、家族のこと等様々な質問をいただき、有難うございました。牧師交代の困難さ、小さい伝道所（対面での礼拝出席は10名前後）の課題をお話する機会ともなり、皆様の温かい眼差しとお祈りに大きな励ましと力をいただきました。主にある交わり、信仰の友がいることの喜びを強く感じ、感謝申し上げます。

また、受付で聖書協会共同訳聖書と交読詩編を見て、思わず教会の聖書をお借りしてしまいました。協会共同訳聖書翻訳事業に翻訳者として関わりましたが、経堂北教会で育まれた御言葉を大切にしたいと深く味わう喜びが、聖書翻訳と向き合う際の心の基となっていたのだと思っております。どうぞこれからも良き交わりとお祈りをお願い致します。横浜にもぜひおいでください。

計り知れない恵み

沢田寛子

饒平名先生が振起日礼拝の説教題を「ぶどう園の労働者のたとえ」ではなく、「自由で気前の良い神」とされたのはとてもキャッチー。クリスチャンではない人がポスターを見て「自由で気前の良い神？」と、内容に興味を持ってくださるかと思つたからです。

先生は最初に、この聖書の箇所が、「社会の常識からすると全く納得のいかない箇所の一つである」と話され、一節ずつ引用して丁寧に説明されました。朝早くから働き始めた人と、夕方の終わりで直前に働き始めた人が、同じ賃金という譬え話。そして最後に来た人から順に、同じ「デナリオン」が支払われる。さすがにそれはないんじゃないか！元々会社員であったご自分の経験から、これが労働時間ではなく、成果主義の話であれば少し納得できると言われ、思わずクスツとなりました。でも、人間の平等意識とか働いた時間はお構いなく、その人にとって大切なものを、その人が必要なもの「自由に気前良く」与

えてくださる方、それが神様です。懇談会は、先生のこれまでの人生を振り返った「ライフイベント」の図を表示しながらのお話でした。クリスチャンの友人と出会った高校時代。大学卒業後はIT企業に就職。東日本大震災後に会社を退職、仙台と石巻でボランティア団体に参加。その後、英語学校の経営も経験し、専門学校講師を務めながら夜間の神学校へ通い、卒業されました。

人生を大きく変えたのはお義父様の93歳での受洗でした。人生をエンジョイしておられたので、キリスト教とは無縁だと思つたお義父様が「聖書のことを知りたい」と言われたのは意外だったが、実は昔、従軍神父との手紙のやり取りがあり、若い頃に御言葉の種が蒔かれていたことを知ったそうです。このお義父様の受洗をきっかけに献身へと導かれたとのこと。人生のどの時点にしようとも、イエス様を信じるならば皆救われるということをお義父様の受洗の話を通してまた学ばせていただいたこの礼拝と懇談会でした。

追悼

ありがとうございます

故・
鈴木督子姉

2024年、8月24日未明、母・鈴木督子は、神様のもとへ旅立ちました。29日の葬儀での岸先生の説明によりますと、経堂北教会へは1985年に伺ったとのことでした。受洗は1958年でした。娘の私から見ても、それ程熱心な教会生活を送っていたとは思いませんが、自宅で聖書の通読をしていた姿は記憶にございます。

2008年に、自宅玄関先で転倒した際、頸椎を打ち、四肢麻痺になってしまいました。その後、何度か転倒等を繰り返し、徐々に、一人での外出が難しくなっていました。しかし毎回動けなくなる度に、リハビリ計画の念頭に置いていたのは、「自分の足で教会に行くこと」でした。そして何度も目標を達成してくれておりました。一人での外出が難しくなっ

からは、私の一時帰国時に、一緒に年に1回伺うだけとなったのかと思います。そしてまた、教会の記録では、2016年が最後になつていたようです。最後の数年間は連れて行つてあげられなかったのも、残念でした。

母が教会へ伺うことが出来なくなつてからは、多くの教会員の方に、支えていただきました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

今回改めて思いましたのは、母を物理的に目の前の存在から亡くし、声に出して会話出来ない哀しみはありますが、信者として神様のもとに旅立てたと思えることが、どれほど心の支えになっているのでしょうか。2000年に父を亡くした時は、病床洗礼も受けておりませんでしたが教会のご厚意で、召天者記念礼拝の錘々たる教会員の皆様の間に加えていただいていますので、これでやっと父も天国の雲の端に指一本でぶら下がっていたのを、母に引つ張り上げてもらっているのではないかと安堵しております。今まで本当にありがとうございました。(鈴木清香)

長老のファイル

いよいよ牧師館の改修工事が始まり、9月2週目には概ね解体工事が進みました。今まで強い日差しも牧師館に遮られ、地下などは肌寒いくらいでしたが、今は教会の壁に残暑が照り付け、財務のお仕事をしていてもエアコンが効かない位です。礼拝中の室温にも注意して参りますが、暑い寒いなどありません。脱ぎ着などで調節をお願いいたします。

岸牧師夫妻は8月末には引越しが完了し、現在は教会近所のアパートとつづば市のご自宅を行き来して毎週の礼拝に備えてくださっています。夏バテと引越しのお疲れが出ませんようにお祈りしております。平日教会に御用の方は事前にご連絡ください。お隣の岡田みな子姉や岩井直子姉が鍵を預かってくださっています。

9月の長老会は、8月が休会だったので2ヶ月分の報告がなされました。財務関係としては夏期特別献金が目標まであと少しとなっています。改修工事の支出もあ

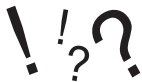
り、今後は会堂整備基金の積立や未来のために会堂建設基金の運用など、丁寧に話し合い、教会形成のため財政の体力温存に努めたいと思います。

礼拝では7月から9月にかけて、柿ノ木坂教会の渡邊義彦牧師、高知教会の松浦子基牧師、カンパウンド長老キリスト教会泉伝道教会の饒平名丈伝道師がお越しください、豊かな礼拝と懇談の時に恵まれました。

CSは8月に高尾の森わくわくビレッジにおいて夏期キャンプを行い、生徒4人教師5人の参加で「イエス様の12弟子」について楽しく学ぶことが出来ました。皆様のお祈りと神様の業による、こども豊かな時間です。大人も子どももこの夏の様々な学びを生かし、実りある秋に向けて経堂北教会の新たなステージを一步ずつ歩んでまいります。(牧内美和)



個人消息



牧師の書齋から

つくばへの引越も終わり、教会、アパート、自宅の3拠点生活が始まりました。猛暑の中の引越と、葬儀が続いたこともあり、かなりくたびれています。説教と集会は何とかしなければなりません、キリスト教入門講座の準備まで手が回らず休会しています。申し訳ありません。

自宅は段ボールが積み上がったままです。必要なものは取り分け

掲示板



- 神学校日礼拝 10月13日(日) 午前10:15
説教「福音の旅路」使徒8:26-40
東出英幸 神学生(日本聖書神学校4年)

編集後記



- ▽今年観た映画でおすすめは『瞳を閉じて』。スペインの名匠ビクトル・エリセの31年ぶりの新作。記憶をめぐる人生と映画のミステリーで、少女のまなざしに深い余韻が残る映画です。(酒井)

「栄 光」2024年10月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧師：岸 俊彦
編集：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp

ていたので問題ありません。ただし、3箇所書類が分かれてしまいい、あつちだ、こつちだ、どつちだ、と時間のロスが負担です。渋滞にまいった時以上に疲れます。

教会への電話は転送しています。不携帯で皆さんにご迷惑をおかけしているかもしれません。お許しください。

教会のパソコンを新しく購入しました。ただ時間がなく、箱に入ったままです。これまで牧師館を中心にしたネットワークでした。その牧師館がなくなった今、新た

にネットワークを構成しなければなりません。メモリを持ち歩いて、事務室のパソコン、牧師室のパソコン、ライブ配信用、自宅と、つなぎ替えるのもかなり面倒。クラウドにするしかないと思うのですが、これも行いが伴いません。

3年前の臨時教会総会で2025年3月末の辞任が決まり、後任も決まり、転居先も決まり、着々と準備してきたつもりですが、正直とても大変。残り半年で引継ぎができるように努めたいのですが。

教会員からも来春を心配され、「洗濯機の脱水は？ 洗剤は？ トイレットペーパーは？」と。何せ牧師館に移り住んだ時は、教会の細々したことは先代の若干の指示のほか何の引継ぎもなかったため、長年夫婦でやってきたことをどう引き継いだものかと思案中。毎週届けてくれていた花屋さんもこれを機に辞めたいとのこと。同年代だからやむを得ません。

ここにきて昔ながらの牧師夫婦であることの欠点が露わになりましたが、今更手遅れ。(岸 俊彦)